

変革する大学にあって 求められる大学図書館像

大学図書館の整備について

科学技術・学術審議会
学術分科会 研究環境基盤部会
学術情報基盤作業部会
(平成22年12月審議のまとめ)

文部科学省研究振興局情報課
学術基盤整備室 丸山修一

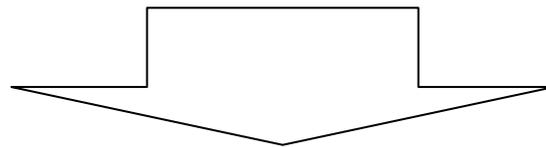
本日の内容

- 大学図書館を巡る検討の経緯
- 科学技術・学術審議会 学術情報基盤作業部会
- 学術情報基盤作業部会における審議経過
- 変革する大学にあって求められる大学図書館像

大学図書館を巡る検討の経緯(1)

「学術情報基盤の整備」に関して、大学図書館の機能強化・高度化が特に強調されるのは何故か。

- 学術情報の主要な生産拠点である**大学の活動を支える基盤的組織**である。
- **学術情報の集積機能**と**発信機能**双方において果たすべき役割が極めて大きい。



学術審議会、科学技術・学術審議会に
おいても幾度となく検討

大学図書館を巡る検討の経緯(2)

学術審議会における検討

- 平成4年7月、「21世紀を展望した学術研究の総合的推進について」(答申)
- 平成5年12月、「大学図書館機能の強化・高度化の推進について」(報告)
⇒ ネットワークと電子化情報の活用、学内外との連携協力、新たなニーズへの対応
- 平成8年7月、「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」(建議)
⇒ 資料の電子化の推進、情報検索機能の向上、情報発信活動の支援、著作権への対応
- 平成11年6月、「科学技術創造立国を目指す我が国の学術研究の総合的推進について」(答申)
⇒ 資料購入予算の確保、大学図書館間の相互利用促進、電子図書館的機能の整備・充実

科学技術・学術審議会における検討

- 平成18年3月、「学術情報基盤の今後の在り方について」(報告)
〔学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方〕
⇒ 大学図書館の戦略的位置付け、電子化への対応、サービス機能の強化、地域・社会との連携
- 平成21年7月、「大学図書館の整備及び学術情報流通の在り方について」(審議のまとめ)
⇒ 電子ジャーナルの効率的な整備、オープンアクセスの推進、機関リポジトリの構築
- 平成22年12月、「大学図書館の整備について」(審議のまとめ)
— 変革する大学にあって求められる大学図書館像 —

科学技術・学術審議会 学術情報基盤作業部会

科学技術・学術審議会

- ・ 文部科学大臣の諮問に応じて、科学技術の総合的な振興に関する重要事項及び学術の振興に関する重要事項を調査審議

学術分科会

- ・ 学術の振興に関する重要事項の調査審議

研究環境基盤部会

- ・ 大学等における研究環境の具体的な整備及び評価等

学術情報基盤作業部会

- ・ 学術情報基盤を取り巻く状況及び課題等の整理
- ・ 学術情報基盤整備に関する対応方策等の検討

【第5期(21. 2. 1～23. 1. 31)構成委員】

(主査) 有川 節夫	九州大学総長
上島 紳一	関西大学副学長
植松 貞夫	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科長
加藤 哲夫	早稲田大学法学学術院教授
倉田 敬子	慶應義塾大学文学部教授
坂内 正夫	情報・システム研究機構国立情報学研究所長
土屋 俊	千葉大学文学部教授
羽入佐和子	お茶の水女子大学長
三宅なほみ	東京大学大学院教育学研究科教授
山口しのぶ	東京工業大学学術国際情報センター教授
米澤 明憲	東京大学大学院情報理工学系研究科教授

※ 職名は平成22年10月現在 5

学術情報基盤作業部会における審議経過

(第27回) 平成21年10月30日

- 大学図書館の整備等に関する中長期的な検討事項に係る論点整理

(第28回) 平成21年11月18日 ～ (第32回) 平成22年4月22日

- 大学図書館の現状と課題について、関係者からの意見発表及び審議

〔意見発表者〕 ※意見発表順、職名は発表時

- ・ 滝澤 正氏 (上智大学図書館長)
- ・ 渡辺 雅男氏 (一橋大学附属図書館長)
- ・ 吉田 正彦氏 (明治大学図書館長)
- ・ 藤井 穰治氏 (京都大学図書館機構長、附属図書館長)
- ・ 緒方 一博氏 (横浜市立大学学術情報センター長)
- ・ 加藤 憲二氏 (静岡大学附属図書館長)
- ・ 上田 修一氏 (慶應義塾大学文学部教授)
- ・ 坂口 哲男氏 (筑波大学大学院図書館情報メディア研究科准教授、文部科学省学術調査官)
- ・ 加藤 哲夫氏 (早稲田大学図書館長、学術情報基盤作業部会専門委員)
- ・ 吉田 素文氏 (九州大学附属図書館副館長)

(第33回) 平成22年5月27日 ～ (第36回) 平成22年10月29日

- 大学図書館の整備に係る議論の取りまとめに向けた審議

(第37回) 平成22年12月3日

- 「大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー」取りまとめ

変革する大学にあって求められる大学図書館像〔目次〕

はじめに

1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け

- (1) 大学図書館の基本的機能
- (2) 環境の変化と大学図書館の課題
 - ① 電子化の進展と学術情報流通の変化
 - ② 大学を巡る環境変化
- (3) 大学図書館に求められる機能・役割
 - ① 学習支援及び教育活動への直接の関与
 - ア. 学習支援
 - イ. 教育活動への直接の関与
 - ② 研究活動に即した支援と知の生産への貢献
 - ③ コレクション構築と適切なナビゲーション
 - ④ 他機関・地域等との連携並びに国際対応
- (4) 大学図書館の組織・運営体制の在り方
 - ① 各大学における戦略的な位置付けの明確化
 - ② 財政基盤の確立
 - ③ 専任職員及び臨時職員の配置並びに外部委託の在り方

2. 大学図書館職員の育成・確保

- (1) 大学図書館職員の業務内容の変化を踏まえた大学図書館職員の育成・確保の必要性
- (2) 大学図書館職員に求められる資質・能力等
 - ① 大学図書館職員としての専門性
 - ② 学習支援における専門性
 - ③ 教育への関与における専門性
 - ④ 研究支援における専門性
- (3) 大学図書館職員の育成・確保の在り方
 - ① 大学における養成
 - ② 大学図書館の現場における育成
 - ③ 大学図書館職員のキャリアパス

おわりに

変革する大学にあって求められる大学図書館像〔要旨〕(1)

はじめに

- 学術情報基盤は、学生の学習や教育活動、研究者間の研究資源・研究成果の共有、研究活動の効率的な展開、社会への教育研究活動の発信、普及等に資するもの。
- コンピュータ・ネットワーク技術の発達と学術資料の電子化の進展などによる学術研究の高度化・多様化と国際的な展開により、学術情報基盤への要請も高度化・多様化。
- 近年、大学図書館を巡る環境には著しい変化。
 - ・ 第一に、大学の教育機能に対する社会的要請の急速な高まり。**教育機能への支援**に対しこれまで以上に関心。学習環境充実の観点から**大学図書館の貢献に一層期待**。
 - ・ 第二に、大学の**研究機能に対する社会の要請**は、これまで以上に特許、科学コミュニケーションなど**直接的な還元や厳格な研究業績評価**を要求。
 - ・ 第三に、**学術情報流通におけるインターネットの重要性**が向上。高等教育、学術研究における**電子情報資源の導入、管理、提供を大学図書館が担当**。
- 海外の大学図書館との連携強化や図書館職員の資質の向上を図る必要。
- 平成18年3月の「学術情報基盤の今後の在り方について(報告)」後、大学の教育研究体制そのものが電子的環境を一層強めつつあり、**大学図書館もこれら環境変化に適切に対応すべく早急な検討が必要**。

変革する大学にあって求められる大学図書館像〔要旨〕(2)

1. 大学図書館の機能・役割及び戦略的な位置付け

(1) 大学図書館の基本的機能

- 学生の学習、高等教育、学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤。
- 学術情報の体系的な収集、蓄積、提供により、教育研究支援機能を担うとともに、社会全体の共有財産として学術情報基盤を構築。
- 現在の大学及び大学図書館を巡る大きな環境変化の中で多様な課題に直面。

(2) 環境の変化と大学図書館の課題

① 電子化の進展と学術情報流通の変化

- インターネット上の多様な情報資源に学生、教職員が容易にアクセス可能。
- 大学図書館は自らの立場や位置付けを明確化した上で、情報の収集、組織化、提供の在り方を工夫していく必要。
- 電子情報資源へのアクセスを保証することは大学図書館の基本的な課題。

② 大学を巡る環境変化

- 18歳人口の減少、国立大学の法人化、国公立大学の基盤的経費の削減傾向、大学間競争の激化等。
- より自発的な学習や実践の必要性が重視。大学図書館もそれを支援する「場」の提供、大学図書館職員による学習支援が期待。

平成20年12月、中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて(答申)」

- ・ 大学卒業までに学生が最低限身に付けなければならない能力を「学士力」と位置付け
- ・ 学士力を構成するものとして、知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、総合的な学習経験と創造的思考力

変革する大学にあって求められる大学図書館像〔要旨〕(3)

(3) 大学図書館に求められる機能・役割

① 学習支援及び教育活動への直接の関与

ア. 学習支援

- **ラーニング・コモンズ**、大学図書館職員等による**レファレンスサービス**等により、**学生や教職員の知的交流活動を活性化**。

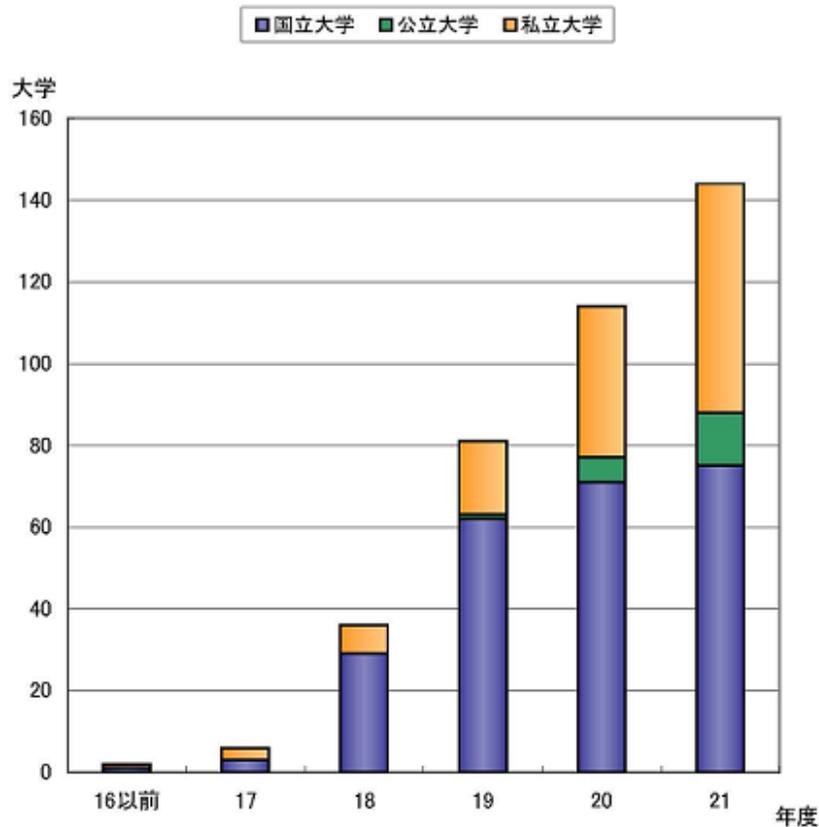
イ. 教育活動への直接の関与

- 情報を探索し、分析・評価し、発信するスキルを一層高める**情報リテラシー教育**が必要。**大学図書館が主体となって取り組むべき**。
- カリキュラム開発等を教員と協同して行うだけでなく、図書館職員が教員を兼任するなどして、直接授業を担当することも視野。
- e-Learningへの取組に関し、教材作成への関与、教材の整理・提供などへ貢献。

② 研究活動に即した支援と知の生産への貢献

- 研究を進める上で**必要な情報アクセスを確保**。研究プロセスにおいて**生み出される多様な情報を組織化、次の研究活動へと活かせるサイクルを形成**。
- **機関リポジトリ**は、研究者自らが論文等を掲載することにより**学術情報流通を改革**、その**公開の迅速性を確保**。同時に教育研究成果の発信を実現、**社会に対する教育研究活動に関する説明責任の保証**、知的生産物の長期保存を実現。
- 大学全体における**リポジトリ事業の位置付けの明確化**、大学図書館業務としての定着、**システム構築と維持体制の整備**などが課題。

機関リポジトリ構築大学数



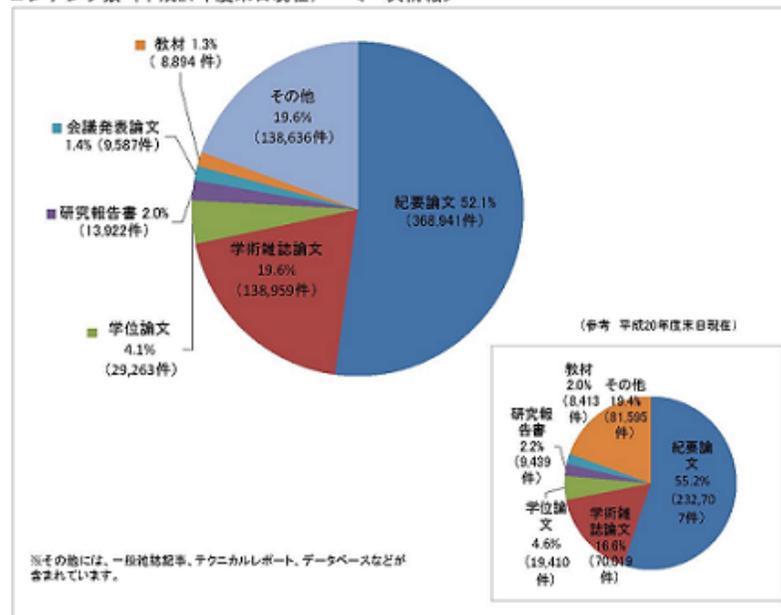
機関リポジトリの構築（公開）大学数（各年度末現在）（棒グラフ） 単位：大学

年 度	16以前	17	18	19	20	21
国立大学	1	3	29	62	71	75
公立大学	0	0	0	1	6	13
私立大学	1	3	7	18	37	56
計	2	6	36	81	114	144

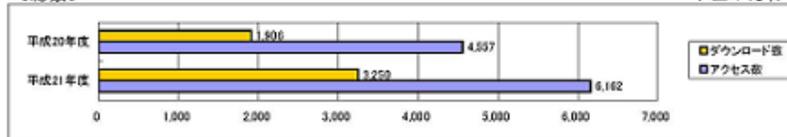
（出典：学術情報基盤実態調査）

機関リポジトリのコンテンツ数と利用状況

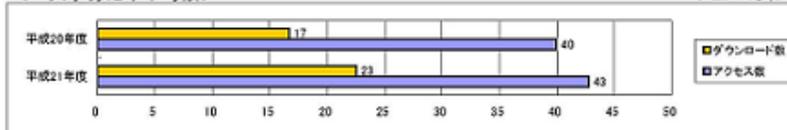
コンテンツ数（平成21年度末日現在） <一次情報>



利用状況（平成21年度実績）
<総数>



<一大学あたり平均数>



（出典：学術情報基盤実態調査）

変革する大学にあって求められる大学図書館像〔要旨〕(4)

③ コレクション構築と適切なナビゲーション

- 従来、教員に負うところが大きかった**学術図書等のコレクション構築**において、**図書館職員の果たす役割も増大**。
- 大学図書館の業務は、電子化された学術情報へのアクセス確保のための外国出版社等との調整や交渉へと大きく変化。コンソーシアム連携により、電子ジャーナルの効率的な整備に向けた体制を強化するため、関係機関等の協力が必要。
- 多様な学術情報への的確、効率的なアクセス確保のため、**より適切で効果的なナビゲーションの在り方を検討**。

④ 他機関・地域等との連携並びに国際対応

- **学内の多様な組織**の他、**学外の関連機関**との連携、**MLA連携**や**公共図書館**との連携。
- 一般市民に対する開放、展示会や講習会の実施など、**保有する情報資源や人材を活用して社会・地域連携**に取り組む必要。
- 大学の国際競争力向上の観点から、**海外の大学図書館**との連携や**職員の国際対応能力の向上**等。

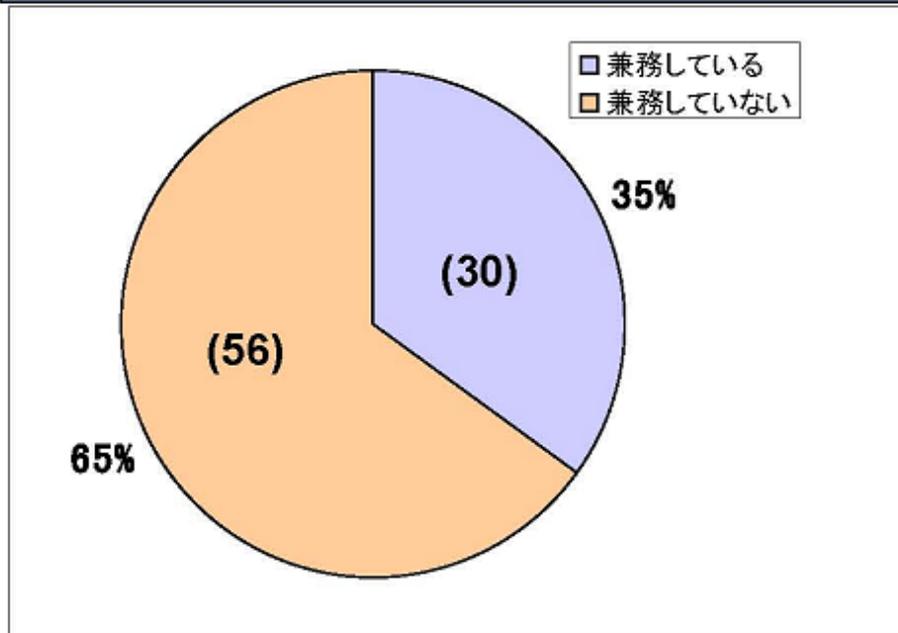
変革する大学にあって求められる大学図書館像〔要旨〕(5)

(4) 大学図書館の組織・運営体制の在り方

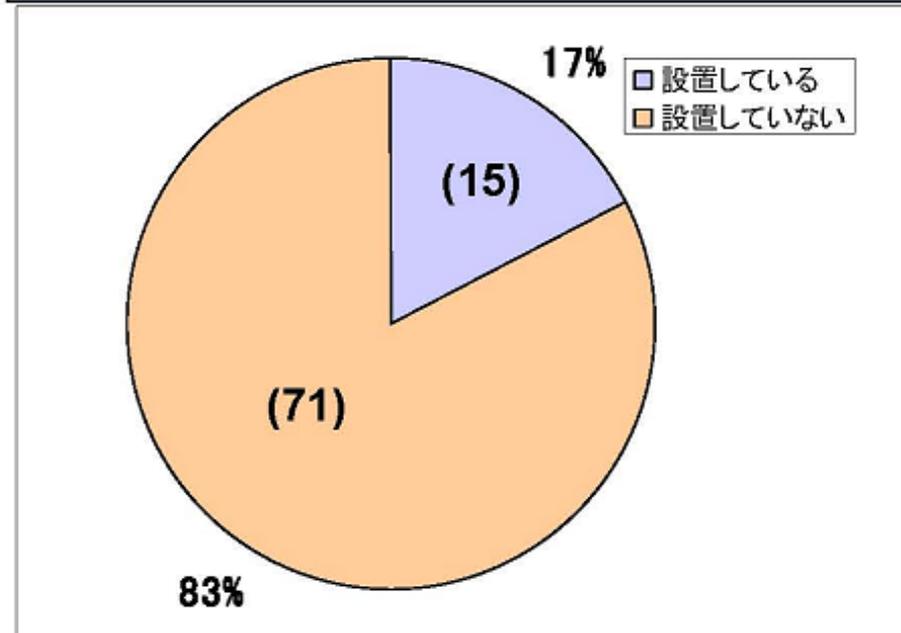
① 各大学における戦略的な位置付けの明確化

- **大学の情報戦略についてイニシアチブ**を発揮。
- 中・長期的な将来計画を策定。**大学全体の将来構想、アクションプランの中で、重要な学術情報基盤として戦略的な位置付けを明確化、学内外にアピール。**
- **図書館長の学内的な位置付けの向上、リーダーシップを発揮できる体制の構築。**図書館長を補佐する**副館長制の導入。**
- 私立大学についていえば、図書館長が大学内外における責任ある主体としてそのイニシアチブを発揮することができるような位置付けが一層明確にされる必要がある。また、大学図書館が重要な学術情報基盤であるとの認識の下、大学図書館運営を統括する図書館長が大学全体の学術情報基盤を充実させる責任の一翼を制度的に担うとともに、大学の内外に対して学術情報基盤に関わる施策を広く周知させる責任の一端をも積極的に担うべきである。
- 全学の図書館に係る**経費と職員を図書館長が一元的に管理**する体制構築が重要。
- 具体的な戦略を大学図書館が主体的に立案・実施。独自の点検・評価システムを導入、評価結果を運営に反映。
- 提供している多様なサービス毎の利用統計を整備。

理事・副学長が大学図書館長を兼務している
国立大学法人の割合【平成22年10月1日現在】



副館長制の実施状況
【平成22年10月1日現在】



※()の数字は大学数。全86大学。

※出典：文部科学省調査

変革する大学にあって求められる大学図書館像〔要旨〕(6)

② 財政基盤の確立

- 各々の大学の教育研究の特色を踏まえた**戦略的で安定的な経費の確保策**を策定。
- 私立大学については、経常費補助金による補助割合が経常費全体の1割となっており、近年減少傾向にある。また、収入で支出を賄えない学校法人も増加し、特に地方の中小規模大学の経営状況が厳しくなっている。このような状況の中で、大学図書館が大学の重要な学術情報基盤であるとの認識を踏まえれば、大学図書館の機能を維持・向上させることを通じて、大学の教育研究の質を一層高め、さらには国際的な競争力を強化するためには、所要の大学図書館予算が確保される安定的な財政基盤の確立が急務である。
- 大学予算全体の一定割合を共通経費として充当するようなシステム構築。
- 各大学図書館の特色あるプロジェクトを立ち上げるなど、**競争的外部資金を獲得**。

競争的外部資金の活用

平成17年度 フェリス女学院大学 「読書運動プロジェクト「フェリスの一冊の本」」

(特色ある大学教育支援プログラム)

平成19年度 明治大学 「「教育の場」としての図書館の積極的活用」

(特色ある大学教育支援プログラム)

平成19年度 東京女子大学 「マイライフ・マイライブラリー」

(新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム)

平成20年度 「共同図書環(館)のネットワークシステムの構築と新たな教養教育プログラムの開発」

愛知県立大学、愛知県立芸術大学、愛知淑徳大学、名古屋外国語大学、名古屋学芸大学

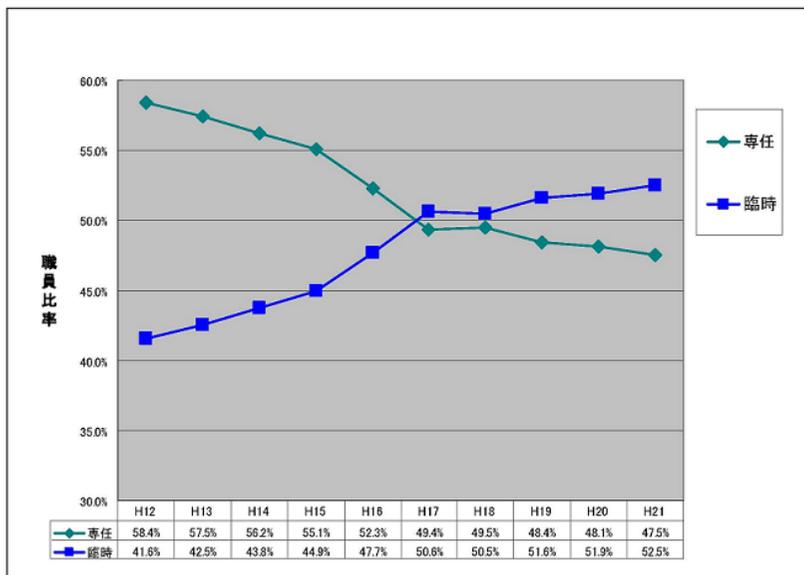
(大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム)

変革する大学にあって求められる大学図書館像〔要旨〕(7)

③ 専任職員及び臨時職員の配置並びに外部委託の在り方

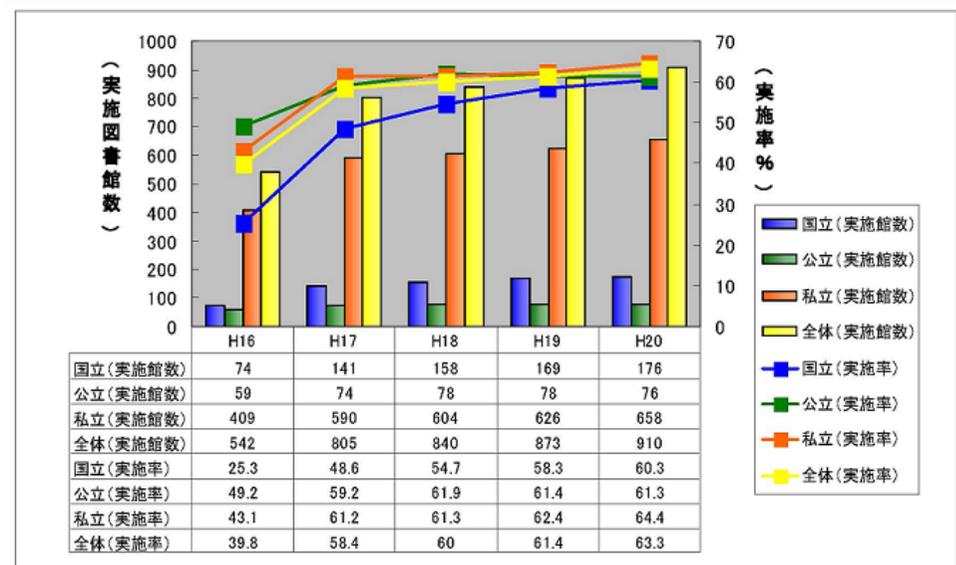
- 業務効率化、人件費削減の下、**専任職員、臨時職員が担うべき業務、外部委託等に委ねる業務との区分けも考慮しつつ、大学図書館の業務体制の在り方を模索。**
- その際、大学図書館における業務の中核となる部分は、専門的な能力を有する人材がある程度長期にわたって安定的に雇用。
- 一部業務を外部委託等に委ねる場合、大学図書館の管理・運営に責任を有する図書館職員によるチェック体制の確保が不可欠。

大学図書館における専任職員と臨時職員の割合



(出典: 学術情報基盤実態調査)

業務の一部委託(※)を実施している大学図書館の数・割合



(出典: 学術情報基盤実態調査)

※以下の業務のうち1つ以上を委託している
大学図書館(分館、部局図書館・室を含む)を数えた。
・目録所在情報データベースの作成
・一次情報(原文情報)データベースの作成
・電算機運用(システム開発等)
・複写
・製本
・受付・閲覧

変革する大学にあって求められる大学図書館像〔要旨〕(8)

2. 大学図書館職員の育成・確保

(1) 大学図書館職員の業務内容の変化を踏まえた大学図書館職員の育成・確保の必要性

- 急速な電子化の進展に伴う変化や技術の進歩に適切に対応するため、大学図書館職員に求められる新たな知識と見識について検討する必要。
- 伝統的な業務の充実を図るだけでなく、**学術情報を駆使して学習、教育、研究に、より積極的に関与する専門家**として学内にアピール。大学内の様々な**情報管理業務に関与**。

(2) 大学図書館職員に求められる資質・能力等

① 大学図書館職員としての専門性

- 伝統的な知識と見識を基礎として、**環境の変化に柔軟に適応し、教育研究に積極的に関与する専門性**。

② 学習支援における専門性

- 各大学等において行われる**教育研究の専門分野に関する知識**。

③ 教育への関与における専門性

- **情報リテラシー教育に直接関与**することは新しい方向性。教員との協力の下に適切なプログラムの開発を実施。

④ 研究支援における専門性

- 研究者が文献に容易にアクセスできるよう、必要な情報資源を関連付けた**ナビゲーション機能及びディスカバリー機能**を強化。
- 現在の受動的な資料収集ではなく、教員との交渉、大学への働きかけなど、様々な工夫の下、**能動的な資料収集能力を発揮**。

変革する大学にあって求められる大学図書館像〔要旨〕(9)

(3) 大学図書館職員の育成・確保の在り方

① 大学における養成

- 大学図書館を巡る状況変化に応じて、養成すべき大学図書館職員の技能も変化。**異なる専門性を有する人材をいかに養成していくかが課題。**

② 大学図書館の現場における育成

- 学内外における研修への参加、在職しながら大学院等での勉学など。大学の規模等の事情もあり個々の対応が困難な面。**大学間における人材の交流など連携が重要。**
- 大学図書館業務全体を見渡し、**個別の業務の位置付けを意識しながら業務を遂行。**

③ 大学図書館職員のキャリアパス

- 優秀な専任職員を確保する観点から、キャリアパス形成について検討。
- **図書館職員が特定分野の学位を取得して教員になったり、教員が図書館職員になったりするなどのパス**も検討。
- サイエンスコミュニケーターや科学ジャーナリストなどの人材も大学図書館職員として採用する仕組み、大学図書館職員が企業等の情報専門家として転職するなど、**多様なキャリアパスの展開。**

おわりに

- 大学図書館関係者は、各大学の事情に応じて、**大学図書館機能の一層の高度化に努力。**アクションプランを策定するなど、**先進的な取組みの一層の推進・拡大**が期待。
- 大学の管理運営関係者は、**大学図書館の安定的な運営の確保に配慮。**
- 文部科学省は、**各大学図書館の主体的な取組みを促進・支援。**

近年における大学、大学図書館を巡る環境変化

- 社会全体における電子化の一層の進展と学術情報流通の変化
- 大学の教育機能に対する社会的要請の高まり
- 大学の研究機能に関する社会的説明責任
- 大学の財政面、制度面の変化

大学図書館の新たな在り方

- 学習、教育、研究支援の拠点
- 大学の内外で生み出される「知」の集積及び発信の拠点

学習・教育・研究支援機能の強化

- ラーニングコモンズ等による自発的学習・実践の支援
- 教育活動への直接的関与、研究活動に即した支援
- 機関リポジトリの構築・運営



コレクション構築とナビゲーションの充実

- 電子ジャーナルの効率的な整備
- 利用者ニーズを踏まえたコレクション構築の推進
- 多様な学術情報への的確なアクセスの確保



他機関等との連携・国際対応の充実

- 学内外の関連組織・地域との連携強化
- 世界の大学図書館の動向把握、外国人留学生受入れ推進に資する環境整備



大学図書館組織・体制の整備

- 重要な学術情報基盤としての戦略的な位置付けの明確化
- 安定的な財政基盤の確立
- 核となる職員を中心とした業務体制の整備



状況変化に対応できる職員の確保

- 専門職として学習、教育、研究に積極的に関与
- 図書館職員の効果的な育成・確保

